

北部地域振興交流拠点 基本構想／概要①

1 検討の経緯

- 県政運営の基礎である埼玉県5か年計画(R4～R8)において、「北部地域振興交流拠点の検討推進」を分野別施策(中小企業等支援)に明記しました。
- その後、県庁舎再整備の検討も開始される中、産業振興機能のほか、県の将来の組織の在り方を踏まえた地域機関の集約化に関する要素も加え、北部地域振興交流拠点を未来の県庁の先行モデルとしても位置付けました。



2 北部地域振興交流拠点に整備する施設

新たな施設	産業振興施設、新埼玉県立図書館(窓口機能)※、埼玉県立病院サテライト
集約・移転施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 熊谷地方庁舎 北部地域振興センター、熊谷県税事務所、消費生活支援センター熊谷、北部環境管理事務所、熊谷点字図書館、熊谷保健所、北部教育事務所 ■ 単独庁舎 大里農林振興センター(熊谷・深谷)、熊谷県土整備事務所、熊谷建築安全センター、営繕・公園事務所 ■ 埼玉県立高等看護学院 ■ 本庁機能の一部、サテライトオフィス

※ 新埼玉県立図書館は、北部地域振興交流拠点に整備する窓口機能及び近隣に整備予定の外部書庫により、一体的にサービスを提供します。

3 現状と課題

(1) 県北部地域の状況

- 県内有数の農業地帯として、野菜をはじめとした様々な農畜産物の生産が行われる一方、人口の流出や急速な高齢化が進んでいます。魅力ある雇用の創出による若年世代の転入・定着を促進するなど地域の活性化が必要となっています。

(2) 施設の状況

集約する地域機関 (築32～53年)	埼玉県立図書館 (熊谷 築54年・久喜 築45年)	埼玉県立高等看護学院 (築43年)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 建物などの老朽化や執務環境の悪化 ■ 従来の発想で建設されており、デジタル技術の進展・可変性のあるオフィスへの対応が困難 ■ 本庁と地域機関の役割の将来的な変化なども想定した上で集約し、更新・維持管理の効率化を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の老朽化 ■ 図書や資料の保存場所が分散し効率的な資料提供に課題 ■ 居住地域に関わらず、誰もが様々な情報にアクセスできるよう、デジタル技術を活用した図書館サービスを提供していく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の老朽化や不便な交通アクセスなどから入学志願者が減少傾向 ■ 本県の看護師養成の拠点としての役割を果たすため、時代に即した魅力的な「新たな高等看護学院」を創造していく必要がある

4 目指す姿

- 「地域の活力向上」と「未来の県庁の先行モデル」という2つの機能を最大限発揮することを目指し、機能ごとに施設を整備します。

基本理念 DXの進展を前提とした未来の公共施設の先進モデル



基本方針

1 県北部地域の活力の向上

産業振興機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 創業支援、研究開発支援や異業種連携などのワンストップ支援 ■ 地域産業を支える担い手の育成 ■ 地域の特色を生かした食と農のイノベーション創出 ■ コンベンションホールを活用した交流促進・情報発信
新埼玉県立図書館(窓口機能)	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術を活用した非来館型サービスを目指しつつ、貸出不可資料の閲覧など来館を要するサービスを北部地域振興交流拠点に集約して実施
埼玉県立高等看護学院	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術を活用した医療教育など時代に即した学習環境の整備
埼玉県立病院サテライト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の医療機関と連携した高度専門医療サービスの提供(本院で治療が終わった患者の経過観察、紹介を受けた患者の初診など)

2 未来の県庁の先行モデルの実現

可変性・柔軟性のあるオフィススペース	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務の特性・内容に応じて働く場所を選択できるABW型オフィス ■ 柔軟にレイアウトを変更できるオフィス ■ 段階的なセキュリティゾーニング
コミュニケーションの創出・活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 部署を超えて人が集まる「場所」の設置 ■ フロア間の交流を促進する中階段
AIなどデジタル技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本庁舎や地域機関、市町村等とのリアルなコミュニケーションを実現する技術の活用 ■ スマートビル機能によるエネルギーマネジメント
Well-being	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイオフィリックデザインなどによる快適性・健康性の向上 ■ 快適な休憩スペースや仮眠室など



▲ABW型オフィスのイメージ

北部地域振興交流拠点 基本構想／概要②

3 安心・安全の確保

耐震性、安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 耐震・制震・免震から施設規模や用途を踏まえ、最適な構造形式を採用
ライフライン途絶時のバックアップ機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 非常用自家発電設備、耐震性貯水槽、行政防災無線、通信回線の複数整備 など
フェーズフリー発想に基づく設備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 非常時の電気自動車からの充電 ■ 災害対策支部スペースやバックアップオフィスなどへの可変性を備えた執務空間
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な防災情報を一覧できるマルチディスプレイ ■ 災害時に必要となる資機材、食料、飲料水、医薬品・衛生物品など物資の備蓄倉庫

4 環境への配慮

省エネ・創エネ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ペロブスカイト太陽電池などの先進技術を活用し、太陽光や太陽熱など地域の特性を生かした再生可能エネルギーの積極的な導入 ■ 高効率な照明・空調、日射遮蔽、外皮性能向上、昼光利用、自然換気の導入などによる省エネルギーの徹底 ■ ZEBやCASBEEの認証取得を通じた高い環境性能の実現
木・緑の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県産木材の積極的な活用による木造化・木質化 ■ 施設の壁面や屋上の緑化
資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷の少ないもの、再生品の優先的な使用



▲木材を活用したイメージ (小鹿野町役場)

5 誰もが使いやすい施設

ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ■ プライバシーへの配慮がなされた相談スペース ■ 車いす利用者も安全・快適に移動できる動線
ジェンダー主流化の視点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 視認性の高い、分かりやすい案内サイン ■ 安心して利用できる授乳室、休憩スペース、トイレ

5 施設規模

■ 県の施設に熊谷市役所を加えた北部地域振興交流拠点の全体規模は約45,000㎡となる見込みです。

① 産業振興施設(共用部含む)	約7,900㎡
② 新埼玉県立図書館(窓口機能)	約1,000㎡
③ 埼玉県立高等看護学院	約3,500㎡
④ 埼玉県立病院サテライト	約600㎡
⑤ 県地域機関等	約10,000㎡
計(県施設)	約23,000㎡
(参考) 熊谷市役所	約22,000㎡

- 熊谷市建築物駐車施設附置条例を踏まえた駐車台数を確保します。
- また、利用者の利便性向上や整備機能との連携・相乗効果が見込まれる民間施設の導入については基本計画以降で検討します。

6 施設配置の考え方及び建設予定地

- 北部地域振興交流拠点については、「4 目指す姿」の「基本理念」で示したとおり2つの機能が最大限発揮されるための施設配置とし、以下の2か所において機能ごとに整備します。

地域の活力向上機能

- 良好な交通アクセス

A棟整備イメージ

地上11階
延床面積 約35,000㎡
敷地面積 8,152.88㎡
自走式立体駐車場 約190台
※ 熊谷市建築物駐車施設附置条例上必要となる台数

未来の県庁の先行モデル機能

- 建物を低層にしても必要な延床面積を確保できる敷地面積
- 建設に当たって既存建物(熊谷地方庁舎)の除却が不要

B棟整備イメージ

地上3階
延床面積 約10,000㎡
敷地面積 21,282㎡
平置き駐車場 約120台

出典：国土地理院ウェブサイト
(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#15.539/36.144093/139.387109/&ls=vpale&disp=1&d=1>)
地理院地図(Vector)を加工して作成

- 産業振興施設
- 新埼玉県立図書館(窓口機能)
- 埼玉県立高等看護学院
- 埼玉県立病院サテライト
- 熊谷市役所(市が検討中)

- 熊谷地方庁舎
北部地域振興センター、熊谷県税事務所、消費生活支援センター熊谷、北部環境管理事務所、熊谷保健所、北部教育事務所、熊谷点字図書館
- 単独庁舎
大里農林振興センター(熊谷・深谷)、熊谷県土整備事務所、熊谷建築安全センター、営繕・公園事務所
- 本庁機能の一部、サテライトオフィス

※ 規模等は、基本構想時点の想定です。

7 事業手法及び事業スケジュール

事業手法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本事業において想定される事業手法として、「従来方式」、「DB方式」、「DBO方式」、「PFI(BTO)方式」、「リース方式」、「LABV」のメリットとデメリットを検討しました。 ■ 基本計画において、財政支出の削減・平準化、整備期間、事業者の参入意向・競争性の確保、民間ノウハウの活用可能性などの観点から効率的・効果的な事業手法を選定します。
事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最短の事業期間で整備した場合の竣工予定 A棟: 令和14年度 B棟: 令和12年度

8 概算整備費

- サウンディング調査及び近年の建築資材や労務単価の上昇を踏まえ、建設費を1㎡あたり70万円～100万円として試算した結果、A棟は271.9億円～387.6億円・B棟は74.9億円～106.9億円となりました。(いずれも設計・工事監理費、立体駐車場整備費を含む。)
- 整備費については、基本計画以降において、詳細な整備計画や建設市況に基づき改めて検討します。また、財政状況等を踏まえ、整備費の抑制についても検討します。

9 今後の進め方(基本計画策定について)

- 整備予定の機能や規模について具体化を行うほか、A・B両棟の構造・配置・設備など各計画の検討や、事業手法の比較・選定などを行います。
- A棟における機能配置については、熊谷市と調整しながら検討を進めます。